

のなぐ

病院と地域を
つなげる広報誌



院長メッセージ

Message

がんのなかでも、最も死亡率の高い肺がん。今回の特集は、肺がんの早期発見と治療をテーマに、呼吸器外科・呼吸器内科の専門医たちの取り組みを紹介しました。肺がんは喫煙者はもちろん、タバコを吸わない人でも発症することがあります。あまり関心がない方もぜひお読みいただいて、日頃の健康管理にお役立てください。

SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」
LINKED
plus+
病院を
知ろう

肺がん治療に対する 専門医たちの視点。

呼吸器外科・内科特集

CONTENTS

- 1 私たちの「治療」
- 2 私たちの「療養支援」
- 3 ここから一步!
- 4 地域医療事情
- 5 NEWS&TOPICS

SPECIAL REPORT

肺がん治療に対する 専門医たちの視点。

呼吸器外科・内科特集

治療の難しい肺がん患者を救うために、
呼吸器の専門医たちが全力を尽くす。

CHAPTER 01
がんのなかで最も
死亡率の高い肺がん。

肺がんは、気管支や肺胞の細胞が何らかの原因でがん細胞になる病気。肺がんの患者数は年々増加しており、それに伴い、死亡率も上昇。1998年には胃がんを抜いて、肺がんががんによる死亡率の第1位（男性1位、女性2位）となった。

それほど治療の難しい肺がんの診断・治療に、岐阜県総合医療センターの呼吸器外科・内科のスタッフたちは日々、闘いを挑んでいる。呼吸器外科部長の松本真介に話を聞いた。「肺がんの手術方法はがんの種類や大きさ、進行度、患者さんの状態などに応じて検討しますが、その際、譲れない優先順位があります。それは「安全性、根治性、肺機能の温存」の順番です。まずどんな場合も安全に手術を行うことを優先し、その上で可能な限り根治性を追求。さらに、できる限り術後の呼吸機能が低下しないように、肺を温存する縮小手術を積極的にに行っています。近い将来、ロボット支援手術も計画していますが、手術に対する基本的な考え方は一緒です。安全性、根治性、機能温存の順番を遵守して、手術を進めていきたいと考えています」。

呼吸器外科が安全第一の手術を追求する一方で、呼吸器内科は早く正確な確定診断に全力を注ぐ。主任医長の都竹晃文は次のように話す。「胸部X線検査やCT検査で

肺がんの疑いがある場合、気管支鏡検査で病変部分の細胞や組織を採取しますが、そこには高度な技術が問われます。当院では、CT検査から作成した患部までの立体的なガイドマップを使用する（バーチャルナビゲーション）を開発し、診断率を飛躍的に向上させています」。（バーチャルナビゲーションとはどのような技術だろうか。「気管支は樹木のように枝分かれしながら徐々に細くなつていきます。その細い道を、カーナビを見ながら運転するように進み、患部に向かってスムーズに気管支鏡を挿入する技術です。非常に短時間で検査できるため、患者さんの負担も少なく、確実な確定診断に繋がっています」と都竹は説明する。こうして得られた精密な診断結果に基づき、手術療法、放射線治療、薬物療法を組み合わせて、患者にとって最適な治療法が提案されている。

C O L U M N

● 早期発見の難しい肺がんだが、そこに活路を開く新しい検査技術が開発されている。これは血液に含まれるマイクロRNAという物質を分析する技術で、1滴の血液を調べることでレントゲンではわからない超早期がんを見つげられるという。

● 「近い将来、実用化されれば、肺がんも胃がんと同じくらい治療成績を伸ばすことができるかもしれません。私たちもこの新技術の実用化に協力していく考えです」と、都竹は期待を寄せている。



早期発見に勝る治療法はない。

呼吸器外科と内科がそれぞれの専門能力を発揮し、肺がんに対して良好な治療成績を重ねる岐阜県総合医療センターだが、このコロナ禍で大きな危機感を抱いているという。「がんの病期は進行度に応じてステージ1〜4に分かれますが、長引くコロナ禍で検診の先延ばしや受診控えが続いた結果、ステージ1で見つかる肺がんが減って、ステージ3、4になってから見つかる人が増えています。他のがんと同じように、肺がんも早期発見が決め手ですから、この傾向には非常に問題意識を感じています」と、都竹は話す。松本も同じ問題意識を共有する。「もう半年、1年早かったら治せていたのに」と、悔しい思いをするケースが増えていますね。肺がんはどんなに治療がうまくいっても、早期発見に勝るものはありません。たとえば、進行がんの患者さんにどんなに良い手術ができたとしても、なかなか

根治性までは望めないのが現実です」。

肺がんはなぜ、早期発見が難しいのだろうか。「肺がんは早期だとほぼ無症状で、症状が出たとしても、咳、痰、息苦しさ、胸痛みなど、風邪や肺炎にも見られるものなので、なかなか肺がんを疑うことができないですね。ですから、積極的にがん検診を受けていただいたり、地域の診療所の先生方に早期に発見していただくことが重要です。先生がちよつとでも疑わしいと思うことがあれば、躊躇することなく紹介してほしいと思います」と都竹。松本も「肺がん治療において、診療所の先生はすごく重要な役割を担っている」と指摘する。「診療所の先生は、患者さんの病歴や生活習慣まで詳しく把握していますから、少しの体調の変化や、ちよつとしたレントゲン上の異常にも気づいていただけます。そうしたかかりつけの先生方と力を合わせて、この地域全体で肺がんの早期発見・早期治療を実現するネットワークを築いていきたいですね。それが、肺がんと闘う私たちの最終的な目標です」。

BACKSTAGE

早期発見の仕組みを地域でつくる重要性。

- 岐阜県総合医療センターの「肺がんステージ別受診数の推移」データによると、3年間に及ぶコロナ禍の影響で、進行してから病院を訪れる人が明らかに増えているという。
- この状況を打開するには、がん検診やかかりつけ医の受診を通じて、早期肺がんを見逃すことなくキャッチし、病院の精密検査に繋ぐことが必要である。病院と診療所が連携し、そうした仕組みを地域全体で作ることが何よりも重要ではないだろうか。



「治療」

今回のテーマ

胸腔鏡手術 (VATS:バツ)



肺がんや自然気胸などに対し、
体に負担の少ない手術を行っています。

01
傷口が小さいため
痛みが少なく
回復も早い手術方法。

胸腔鏡手術は胸部の皮膚を数カ所小さく切って、肋骨(ろっこつ)と肋骨の間から胸腔鏡や手術器具を挿入。カメラで映し出された胸の中の映像を見ながら行う手術です。略してVATS(バツ)といいます。これはvideo-assisted thoracic surgery(ビデオ補助下胸腔鏡手術)の頭文字を取った略語です。

胸腔鏡手術が適用されるのは、肺がん、縦隔腫瘍、自然気胸など呼吸器外科手術全般にわたります。この手術の利点は、傷口が小さいため痛みが少なく、体への負担を抑えられるところ。たとえば肺がんは以前、胸部を大きく切開して行う開胸手術が一般的でしたが、今は胸腔鏡手術が標準治療になってきています。



02
早期の肺がん
に胸腔鏡手術を
積極的に採用。

胸腔鏡手術には、モニターだけを見ながら手術する完全胸腔鏡下手術と、胸腔鏡を挿入してモニターを見つつ、胸部を小さく切開して直接目でも確認しながら肺切除を行うハイブリッド手術があります。

当院では、これらの術式を積極的に行うことにより、体に負担の少ない治療を実現しています。データによると、2009～2022年に行ったほとんどの肺がん手術は胸腔鏡を使用して行っており、良好な手術成績をあげています。また、術後の入院期間も3～7日間程度に短縮しています。なお、胸腔鏡手術は優れた手術法ですが、肺がんの進行度や患者さんの状態によっては、安全性・根治性を優先して開胸手術を選択しています。

Message

呼吸器外科 部長
松本真介



肺がんは早期に
見つければ、負担の
少ない手術ができます。

胸腔鏡手術は肺がん手術のアプローチ方法ですが、同時に、切除範囲も重要なポイントです。肺がんの手術では、がんのある肺葉を全部切除するため、手術後に呼吸機能が低下してしまいます。そのため当院では画像を詳細に検討して、呼吸機能を温存する〈縮小手術(区域切除、楔状切除)〉を積極的に取り入れています。縮小手術をすることにより、息苦しさが少なくなり、QOL(生活の質)を高く保つことが期待できます。

但し、これらの手術を適用できるのは、早期の肺がんに限定されます。肺がんは、がん検診や人間ドックのCT検査で発見されることも多くありますから、日頃から健康チェックを心がけていただきたいと思います。



がん予防①

たばこを吸っている人は禁煙をしましょう。吸わない人も他人のたばこの煙を避けましょう。

療養支援

今回のテーマ

呼吸サポートチーム (RST)



人工呼吸器を装着した患者さんの呼吸管理や呼吸ケアを多職種でサポートしています。

呼吸状態が悪くなった 患者さんの安全な呼吸を 守るために。 01

当院の救命救急センター・ICU(集中治療室)では、大半の患者さんが人工呼吸器(酸素を肺へ送り、呼吸を助ける医療機器)を装着しています。そうした方々を支えるために、2011年4月、呼吸サポートチーム(RST)を組織し、活動を開始しました。さらに近年、新型コロナウイルス感染症の入院受け入れに伴い、重症呼吸不全の患者さんが増え、呼吸サポートの活動を一般病棟へ拡大。2019年10月よりスタッフも増員し、呼吸サポートセンター部(現在:呼吸サポート部)を立ち上げました。

RSTのメンバーは、医師(呼吸器外科、呼吸器内科、循環器内科、歯科口腔外科)、理学療法士、看護師、臨床工学技士から構成され、多職種のチーム医療を実践しています。



カンファレンスと回診を 毎日行い、患者さんを サポートしています。 02

RSTでは平日毎朝、カンファレンスを行い、救命救急センター・ICUの回診を実施。人工呼吸器の適切な設定や排痰援助などに関する助言、口腔内の衛生管理などを行い、人工呼吸器の安全管理と人工呼吸器からの早期離脱をめざしています。一般病棟では主治医の依頼に基づいて、人工呼吸器を装着した方や呼吸状態の悪い患者さんを対象にサポート。週に1回、カンファレンスと回診を行い、呼吸機能の早期回復に向けて支援しています。

また、院内全体の呼吸管理のレベルを上げるために、研修医などを対象にした呼吸管理の勉強会なども積極的に開催しています。人工呼吸器の管理や呼吸ケアについて、職員の意識を高めるよう働きかけています。

Message

理学療法士
森 輝樹



専属の理学療法士2名が患者さんの呼吸機能の改善を支援しています。

2021年4月から、私を含めて理学療法士2名がRSTの専属となって活動しています。私たちが主に行うのは、人工呼吸器を装着した患者さんの呼吸機能改善を目的にした呼吸練習や体位変換、排痰援助、身体機能向上をめざした筋力練習などです。特に肺がんの手術を受けた方に対しては、術後合併症を起こすことなく、ICUから一般病棟へ移られるよう、全身状態に配慮したサポートを心がけています。

また、土・日曜日にも必ず理学療法士1名が出勤しているので、患者さんの新規入院や容体の変化について、RSTの医師に院内メールなどで速やかに連絡。休日にも途切れることなく、チームで情報を共有し、患者さんをきめ細かく支援しています。



がん予防②

食事は偏らずバランスよく取りましょう。お酒を飲む場合は節度のある飲酒を。

未来を見つめて ここから一歩!

対談

新人診療放射線技師
×
新人看護師

「患者さんのために」
という気持ちを
いつも心に。

診療放射線技師(1年目)

曾我永雅

(そがえま)

岐阜県岐阜市出身、藤田
医科大学医療科学部卒業
中央放射線部



看護師(1年目)

鐘ヶ江 穂

(かねがえみのり)

岐阜県不破郡垂井町出身、
日本福祉大学看護学部卒業
中央放射線・内視鏡部

同じ中央放射線部で働く2人。

それぞれの仕事の内容を教えてください。

曾我 私は診療放射線技師として、レントゲン、歯科撮影、マンモグラフィ、CT、そして心臓に関わるカテーテル検査に携わっています。先輩に教わったことを吸収しながら、正確に撮影できるように一生懸命取り組んでいます。

鐘ヶ江 私は、曾我さんたちが撮影を担当するかたわらで、患者さんが安全に不安なく検査や治療を受けられるようにサポートしています。検査の場合ですと、患者さんと接する時間がとても短いのですが、少しでも検査への恐怖心や不安感を減らせるように、と考えて寄り添っています。

曾我 確かに「ご気分はどうですか」など、よく声をかけていますね。看護師の方は忙しいときも患者さんへの心配りが行き届いていて、すごいな、と感心して見えています。

鐘ヶ江 いえ、まだまだですが…。私は技師さんの専門知識に学ばせてもらっています。たとえば、カテーテル検査中、どの血管を撮影しているか、などを伺うと、丁寧に教えてくださって、とても勉強になります。

マニュアル通りではなく
自分の頭で考えて
撮影できる技師に。



中央放射線・内視鏡部で
経験を積み、ゆくゆくは病棟の
看護も体験したいですね。

仕事で大切にしているのは
どんなことですか。

曾我 マニュアル通りに撮影することはもちろん大切ですが、先生のオーダーを踏まえ、撮影範囲を工夫するよう心がけています。そうすることで、少しでも患者さんのためになると思うとやりがいを感じますね。

鐘ヶ江 「患者さんのために」というところ、私も一番大事にしています。どのように接したら、リラックスしていただけるか、この1年間でたくさん学んだので、2年目はそれをさらに深めていきたい。また、重症で運ばれてくる方も多いので、緊急時に対応できる力も養っていきたくと思っています。

曾我 救急の対応力は、私も目標にしています。先輩たちは、救急患者さんの検査画像を見て、すぐ先生に伝えるべきか、追加撮影が必要かななどを判断しています。そんな優秀な診療放射線技師になりたいですね。

鐘ヶ江 まずは、4月から後輩も入ってきますから、私たち先輩になるわけですよ。頑張らないと…。

曾我 本当に、頼りにしてもらえる先輩をめざしたいですね。

プラス
a

がん予防③

太りすぎず、やせすぎず、適正な体重管理を。日常生活を活動的に過ごしましょう。

知っておきたい

地域 医療 事情

今回のテーマ

地域連携
パス

岐阜県
総合医療
センター
では

病院とかかりつけ医が連携して患者さんを支えるために疾患ごとの「地域連携パス」が運用されています。

✔ 岐阜県下の病院と診療所が、診療計画を共有。

病気の治療は、手術などを終えて退院した後も続きます。そのため、専門的・集中的な治療を行う病院と地域の診療所が連携し、診療計画を共有して治療していくことが重要になります。その連携を助けるツールとして作られているのが、疾患ごとの「地域連携パス(診療計画書)」です。

岐阜県下では2006年、岐阜市医師会を中心に地域連携パスの運用がスタート。急性心筋梗塞や大腿骨頸部骨折、脳卒中、がんなど、日本人に多い主な疾患等について、それぞれ地域連携パスが運用されています。

✔ 6種類のがんに運用されている「地域連携パス」。

がんについては、肺がん、胃がん、大腸がん、肝臓がん、乳がん、前立腺がんの6種類の岐阜県地域連携パスがあり、5年間にわたって記録できるように、岐阜県内で地域連携パスの様式が統一されています。

患者さんは退院後、これまでの治療情報が書かれた連携パスをかかりつけ医に持参し、手術後の経過や今後の診療計画を確認。その後、かかりつけ医や病院を受診するたびに連携パスを提出し、診察所見や検査結果、体調などを記入していきます。このように連携パスを介して、患者さんご家族、病院の医師とかかりつけ医が情報を共有していきます。そして、診察や検査、治療、経過観察など共通化された計画に沿って、がんの治療をスムーズに継続していく仕組みになっています。



呼吸器外科と呼吸器内科、地域医療連携部が協力して、肺がん地域連携パスの運用を進めています。

岐阜県総合医療センターでは、現在、18種類の連携パスを運用しています。肺がんについては、2013年度から運用に取り組み、2022年6月までの運用実績は180件にのびります。

連携パスの適用については、手術を担当した呼吸器外科の主治医が判断。その上で、抗がん剤治療や放射線治療に関わる呼吸器内科の医師が協力し、運用を進めていきます。患者さんご家族への説明は、地域医療連携部・連携パス推進室のスタッフ(看護師)が担当。パンフレットをお見せして、連携パス(5年間の診療計画

書)の使い方などをわかりやすく説明させていただきます。肺がんの治療は長期にわたります。連携パスを用いることによって、患者さんが自己判断で受診をやめることなく、前向きに治療に取り組めるよう支えていきたいと思えます。療養中の不安や悩みなどがあれば、いつでもお気軽にご相談ください。

総合サポートセンター
地域医療連携部
上席看護師長 村瀬明子



がん予防④ 定期的ながん検診を受けましょう。早期発見・早期治療のチャンスを逃さずに。

オンラインLIVE配信・市民公開WEBセミナーを開催します。

専門医や看護職が、病気の基礎知識や、療養生活に役立つ情報をお伝えします。

2023年3月26日(日)
開催決定

各講座想定時間

セミナー15分程度／質疑応答15分程度

スマホ・パソコンなどから
参加・視聴できます!無料 各講座**100**名(LIVE配信対象の講座)

※応募多数の場合は抽選となります。

※オンライン開催のため当日来院いただいても視聴できません。

お申し込み方法

WEBサイトで受けつけています
〈事前申込制〉受講したい講座を選んで
お申し込みください。全講座の受講も可能です。[https://plusc.project-linked.net/
gifu-hp/seminar/](https://plusc.project-linked.net/gifu-hp/seminar/)LIVE配信のお申込期限
2023年3月22日(水)

お問い合わせ先

中日新聞LINKEDプロジェクトリンク事務局

TEL 052-884-7831 FAX 052-884-7833

E-mail info@project-linked.com

主催／中日新聞LINKED 共催／岐阜県総合医療センター

LIVE配信

講座 01 午後1時30分開始

知っていますか?
かかるとつらい帯状疱疹
～後悔しないために今からできること～
皮膚科 部長 永井美貴

講座 02 午後2時45分開始

知ろう! 気づこう! 心臓弁膜症。
心不全になりにくい体をめざして。
循環器内科 医長 矢ヶ崎裕人

講座 03 午後4時開始

脳梗塞は予防が重要! 学んで知って
生活習慣の改善に努めましょう。
脳神経外科部長・脳卒中治療科部長 村瀬 悟

録画配信

テーマ 狭心症

循環器内科医長 心血管カテーテル治療科部長 岩間 眞

テーマ 小児アレルギー

小児療育内科 金子英雄

テーマ 胃がん

外科 部長 長尾成敏

テーマ 慢性心不全のケア

慢性心不全看護認定看護師 蓑島啓太

テーマ 脳卒中のケア

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 河合正貴

岐阜県総合医療センター WEBマガジン

地域の皆さんや連携機関の皆さんと「岐阜県総合医療センター」を情報で
繋ぐ、広報誌連動型コミュニケーションサイト。ぜひご覧ください。

つなぐ

こちらから

